

平成23年度 【大学振興会研究奨励補助】研究成果報告書

学部名 生活科学部

フリガナ ハシモトマサヨシ
氏名 橋本雅好

研究期間 平成23年度

研究課題名 大学における「感性とデザイン」教育に関する調査

研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	橋本雅好	生活科学部	准教授
研究分担者			
研究分担者			

1. 本研究開始の背景や目的等 (200字~300字程度で記述)

現在のデザイン教育において、「感性」とは何かを把握し、その内容をしっかりとデザイン教育の中に取り入れていくことは、デザイン教育を専門とする本学科としても急務である。そこで、本研究では、1) 日本全国におけるデザイン系の大学に対して「感性」と「デザイン」をキーワードとした授業シラバスを収集して、内容を分析し、類型化すること、2) 「感性価値デザイン展」などの展示を視察し、最先端の感性デザインを把握することの2点を目的とする。

2. 研究方法等 (300字程度で記述)

具体的には、1) として、日本全国におけるデザイン系の大学と専門学校について、文献およびWEBにて、大学名、学部名、学科名、専攻名、コース名のいずれかに「感性」か「デザイン」が使われているものを収集し、それらを対象事例として、シラバスを収集し、授業内容を分析する。2) として、経済産業省が企画している「感性価値デザイン展」や感性デザインに関連する展示、企画を視察し、最先端の感性デザインに関する資料、事例を収集し、傾向を探る。

3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

「学研 2010 年度大学・短期大学受験案内」を用い、大学の学部、学科、コースに「デザイン」というキーワードが入っている大学を選出した。その後、調査対象大学の WEB シラバスの有無を確認した。WEB シラバスが無い大学には、郵送で文献シラバスの請求をした（シラバス返信 34 件（62%）であった。256 学科コース 163 大学が該当し、「感性」が科目名に入っている授業については、芸術系・工学系・服飾系の授業が主だった。芸術系の授業は実際にものをつくったり、デザイン企画をおこなったり、形を表現する授業であった。これより、感性は自分で考え、自分で何かをつくることによって、感性はより豊かになりやすく育成しやすいと考えられる。教育方法では、講義と実習が半数ほどずつでおこなわれており、講義からでも実習からでも感性の育成はできるといえる。現状として、感性教育が充実しているとは言えないが、シラバスの調査を通して、感性教育に様々な種類の授業があることがわかった

4. キーワード (本研究のキーワードを 1 以上 8 以内で記載)

①感性	②デザイン	③シラバス	④大学
⑤	⑥	⑦	⑧

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著者名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。)

本研究は、相山女学園大学研究論集に投稿し、感性デザインに関する授業内容に反映する予定である。